

京町家保全

「危機に瀕する文化遺産」

25万ドル助成

歴史遺産の保全を支援する世界最大級の民間団体「ワールドモニユメント財団」(WMF、米国)は10日、京町家の再生に25万ドル(2300万円)を助成すると発表した。市景観・まちづくりセンターなどが助成金を活用し、空き家の京町家を改修して情報発信拠点の整備を目指す。WMFは1996年から、2年ご

米財団、京の団体に

とに更新する「危機に瀕する文化遺産リスト」を発表し、保全支援のための寄付を資産家に呼び掛けている。これまで約630カ所をリストに載せ、計2億ドルを助成している。

京町家も昨年10月に2010年度版リストに登録された。国内での助成は04年12月に10万ドルを受けた広島県福山市の「鞆の浦」に次いで2例目。昨年12月24日、米国のフリー

釜座町町家 → 情報拠点に

マン財団から「京町家保全に役立ちたい」とWMFに寄付の申し出があったという。

市景観・まちづくりセンターが助成金を受け、NPO法人「京町家再生研究会」と連携する。現在、空き家の地元町内会所有の「釜座町町家」(中京区)を改修し、地域のコミュニティセンターとして再生させ、町家情報を発信する拠点として利用する予定。また町家を活用した教育活動も展開する。

10日に市役所で式典があり、出席したWMFのヘンリー・エンジー副理事長は「文化や歴史だけでなく、自然を生かした建築様式としても価値が高い。国際社会で支援する気持ちが高まった」と報告。門川大作市長は「京都の宝である京町家が世界の宝と認証を受け、大変うれしい」と喜んでいった。

(竹下大輔)